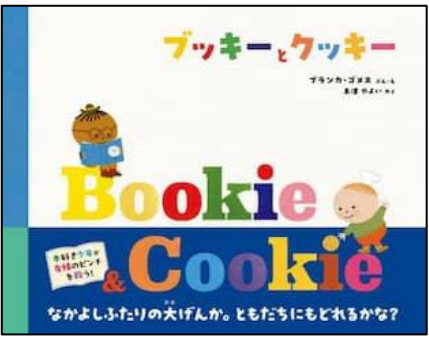
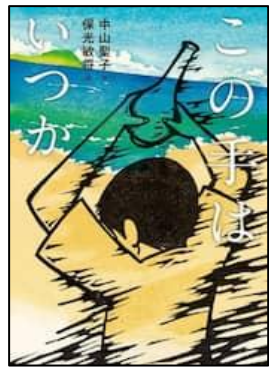


2025年度(令和7年度) 夏休みにおすすめする本				
選 定 北海道学校図書館協会				
選定協力 札幌市学校図書館協議会				
	表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 税込価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など
幼 児				
1		あのひのきもち かさい まり/作 岡田 千晶/絵 978-4-323-07543-3	金の星社 2025.1 1,540円	仲良しのネズミとリス。同じよう違う2匹の気持ちを通じ合ったとき、お互いを思う気持ちとやさしさが生まれる。心が温くなる一冊。「君が居る幸せに、気付いた」そんな時間を描く絵本。 自分の気持ちを考えるとき、誰かの気持ちを考えるとき、この絵本をそばにおいてください。「君が居る幸せに、気付いた」そんな時間を描く絵本。
2		はじめて・りょうり ごはん いまい まみ/文 かどかわ ようこ/絵 978-4-8340-8847-2	福音館書店 2025.4 1,430円	「こどもがはじめてであうりょうりのほん」。料理の楽しさ、食材のおいしさが頭の中に広がっていく絵本シリーズの2冊。「ごはん」「トマト」食べ物の美味しさに気づき、料理作りへと誘ってくれる。 私たちは、日々さまざまな料理をしています。それは、レストランで食べるような華やかなものではなく、さっと作れるものが多いのではないのでしょうか。そういう「名前のない料理」こそ、たくましく日常を支えていると、私は思っています。
3		ちようちょむすびのムスピーナさん あさの ますみ/文 高畠 那生/絵 978-4-7764-1163-5	BL出版 2025.6 1,760円	ムスピーナさんは、長い耳のうさぎのおばあさん。長い耳を使ってちようちょ結びをあらいぐまさんに教えます。楽しく結び方がわかるかも。 ムスピーナさんは、ながーい耳の、うさぎのおばあさん。アライグマさんにたのまれ、子どもにちようちょむすびのやりかたを教えます。たのしい歌にあわせて、できるかな？
4		かけています 市原 淳/作 978-4-418-25824-6	世界文化社 2025.6 1,485円	声に出すとクスツと笑っちゃう、かけことばえほん。カレーを「かけています」かぎを「かけています」サングラスを「かけています」。おなじ「かけています」だけどちよっちがう？おなじ「かけています」だからかなりおもしろい！親子で読んでほしい絵本大賞入賞作『とっています』につづく、「クスツとことばえほん」第2弾！
5		おせわになりました ヘイズ 優衣/作 978-4-86484-205-1	絵本塾出版 2025.5 1,870円	ほのぼの夏の思い出絵本。 セミさん、扇風機さん、かき氷さん、スイカさん。みーんなお世話になりました。すいかさん、夏はお世話になりました。今年は、タネとばしでお父さんに勝ちました。女の子が体験するひと夏の思い出。来年はどんな夏になるのかな？
小学校・低学年				
1		わたしのちいさないきものえん 大島 加奈子/作 978-4-8340-8843-4	福音館書店 2025.4 1,320円	身近な生き物のアオムシやダンゴムシなどを飼いたい！もっと観察したい！そんな思いをかなえてくれる絵本。とてもわかりやすく簡単なケースの作り方やお世話の方法が紹介されている。 ダンゴムシやテントウムシ、モンシロチョウといった身近な生きものを飼ってみましょう。飼育ケースがなくても、イチゴパックやペットボトルなどを再利用すれば大丈夫！簡単な飼育ケースの作りかたや、お世話の方法、そして多様な生きものを飼育観察する喜びをお伝えします。さあ、お家の中にあなたの小さな生きもの園、開園です！
2		みっちり つぶつぶ とうもろこし いわさ ゆうこ/作 978-4-494-02253-3	童心社 2025.4 1,320円	どうもろこしが、みっちりと豊かに実るまでの様子と仕組みが、生命力あふれた精緻な絵で描かれた科学絵本。 野菜毎日いただきまーす。どんな形？どんな味？今から会えるよ おいしい野菜。夏のごちそう、どうもろこし。みっちりつまった粒々は、どうやってできたの？ めばなのかわを、ひらいてみたら…？ ごはんにおやつに、子どもたちに人気のとうもろこし。みっちりつまったつぶつぶが豊かに実るまでの様子としくみを、精緻で生命力にあふれた絵と、ここちよいリズムのことばで、楽しくつたえます。
3		あおのいえ いとう みく/作 丸山 ゆき/絵 978-4-494-02088-1	童心社 2025.5 1,540円	「あおくんちって、なんか複雑だね」ぼくは、ともだちのおねえさんに言われたことを、しずさんに伝えた。しずさんは「そうね、人と人が一緒に暮らすって、複雑なことなのよ」といった。「つまり、簡単じゃないってことね。簡単じゃないことってわかりにくいでしょ」「ぼくんちは、わかりにくいってこと？」まあそうねと、しずさんはつぶやいた。「たぶん、クラスのほとんどの子のうちには、お父さんとお母さんがいるでしょ」「うん」「あおは、そうじゃない」??みんなとちがうって、いけないことなの？ 様々な家族のあり方を描き続ける、いとうみくの新作。

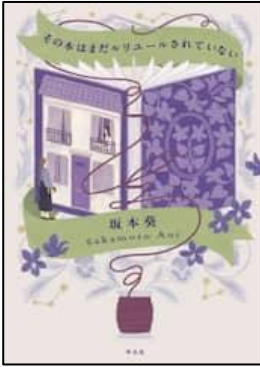
4		ぼくたちのいえ 藤原 ヒロコ/作・絵 978-4-580-82698-4	文研出版 2025.5 1,650円	ぼくが家の絵をかくと、12の生きものがやってきて家にしょうたいしてくれます。2ひきのネコといっしょに、みんなの家を順番にたずねます。クモ、アリ、モグラ、コウモリ、トカゲ、カエル、アメンボ、ドジョウ、チョウ、ハチ、リス、カラス。それぞれどんな家にすんでいるでしょう。左ページはじっさいの生きものの「家」。右ページはその家に「ぼくが住んだら…」と空想が広がっていきます。リアルとファンタジーの世界を行き来しながら、生きものたちと出会えます。
5		クマダさんの どんぐりコーヒー はやし ますみ/作 978-4-7520-1111-8	アリス館 2024.11 1,650円	カーテンを開めきり、どこにも出かけず、寝てばかりのクマダさんは、飲みたくて仕方なかったどんぐりコーヒーを自分で入れてみると…。閉じていた扉を開けて一歩踏み出す物語。 どこにも出かけず、寝てばかりいたクマダさん。ある日、どんぐりコーヒーをいれてみると…。おや？香りに誘われて、誰かがやってきましたよ。このお話は、閉じていた扉を開けて、一歩踏み出す物語です。
6		なにかいいことあった？ ミーシャ・アーチャー/作 石津 ちひろ/訳 978-4-7764-1147-5	BL出版 2025.3 1,870円	ダニエルは、おじいちゃんに「なにか、いいことあったかい？」と尋ねられた。思いつかなかったのでもいいことを探しに公園を巡ると…。いいこと探しで自分の成長に気付くダニエルの姿に、毎日がうれしくなるような絵本。 「何かいいことあったかい？」おじいちゃんからそうたずねられたダニエルは、何かいいことを探しに、公園をめぐります。さて、見つけられるでしょうか。今までできなかったことができるようになること、からだが大きくなること、新しいいのちが生まれること、毎日がうれしくなるような絵本です。
7		きをそだてる きこりのきこさん 室井 さと子/作 978-4-406-06823-9	新日本出版社 2025.1 1,650円	助けあって苗木を植え、草を刈り、枝を切り、光と風の通りをよくする。選んだ木を切る。そんな山の仕事を楽しく伝えてくれる。 きこりの「きこ」さんは、木を育てています。苗木を山に植え、育った木を、木材として出す一年。山仕事仲間と、助け合って草刈りや、木の枝切り、台風がきたら後始末。美しい紅葉が過ぎ、木を切り倒します。山仕事のあれこれを、たのしくつたえるおしごと絵本です。
8		つくしちゃんと ながれぼし いとう みく/作 丹地 陽子/絵 978-4-8340-8834-2	福音館書店 2025.2 1,320円	小学校2年生のつくしちゃんの3つのお話は、乱暴に扱う男の子への葛藤や、預かった猫への愛着など、どれも共感しながら読むことができ、相手の心を想像し寄りそおうとする優しさにあふれている。 土手でトランペットをふくマネをする人を見て、「いい演奏」だというクラスメイトのうみちゃん。なにも聞こえないのにどういう意味だろう？つくしちゃんはふしぎに思いますが、あることを知ってー。想像して、よりそって、友だちを思うやさしさにあふれた、3つのお話。
9		こころのあな リンジー・ボニヤ/文 ブリジタ・マーグロ/絵 東 菜奈/訳 978-4-265-85234-5	岩崎書店 2025.4 1,760円	弟が死んでしまい、家族につきまとう暗い穴。この穴にとまどい、消しさりたくても消えなくて…。喪失感に寄りそい手助けするプロセスを温かく描いた絵本。 弟が死んでから、ぼくたち家族には穴がつきまとう。この穴をどうしたらいいの？なんで弟に会えないの？なんで？どうしてなの？深い喪失感や心の痛みに寄りそう〈グリーンケア〉の絵本。
10		ブッキーとクッキー ブランカ・ゴメス/文・絵 島津 やよい/訳 978-4-7980-7465-8	秀和システム 2025.5 1,980円	大親友のブッキーとクッキーが住んでいるのは本の中。自分のページが大好きなクッキーは、ブッキーがいくら誘ってもことわって、ついにはげんかに。仲直りや他者理解を考える絵本。 ブッキーとクッキーは、大の仲良し。一緒におやつを食べながら、本を読んだり、おしゃべりするのが大好き。それなのにある日、けんかをしちゃって…二人は仲直りできるかな？やっぱり、おやつと本はシェアしたほうが、ずっとずっと楽しいよね！
小学校・中学年				
1		ひろい海に ぼくたちは生きている 長倉 洋海/作 978-4-7520-1122-4	アリス館 2024.12 1,980円	「海は、だれの持ち物でもない。みんなのもの」。海に暮らす様々な人々に出会い、海の恵みと境界のない広がりを感じさせてくれる写真絵本。子どもたちの表情がまぶしい。 海で生活をする人々を訪ねて、長倉洋海さんが3つの島を回ります。自然の中で自由に生きている彼らは生き生きとしていてとても陽気です。
2		空となかよくなる天気の写真えほん かんてんぼううき 荒木 健太郎/文・写真・絵 978-4-323-02823-1	金の星社 2024.12 1,540円	雲や空を見て、これからの天気がどうなるか予想することを「かんてんぼううき」という。それをテーマに、天気の変化を教えてくれるさまざまな雲たちをキャラクターで学べる本。 「かんてんぼううき」ってなんだろう？漢字で書くと「観天望気」。雲や空、風などの自然現象を見て天気の変化を予想するものです。晴れ、天気がくずれる、天気の急変などが空を見て予想できたらちょっと自慢できるかも！？
3		空となかよくなる天気の写真えほん にじ 荒木 健太郎/文・写真・絵 978-4-323-02825-5	金の星社 2025.3 1,540円	“にじ”のもとになっているのは何？“にじ”のふもとはどうなっているの？など虹についての疑問や種類についてやさしく解説してくれる写真絵本。 仕組みを知るだけできれいな虹のかかる空にねらって出会える！映画「天気の子」気象監修、人気雲研究者が“にじ”のふしぎにせまる写真絵本。 虹を見たことはありますか？どんな時に見えるかな？虹の色は決まっているのかな？虹にもいろいろな種類があるのだろうか？そもそも虹って何？美しい写真で虹を紹介しながら、その秘密にせまります！

4		ベランダでわたをつくったよ そだててつむぐ綿花 あおき あさみ/作 978-4-8340-8848-9	福音館書店 2025.4 1,760円	お隣りのおばあちゃんがくれた綿花の種をベランダの鉢に植えたモモとタイガ。綿花の育て方、糸のつむぎ方、布の織り方など…。綿花のことが楽しめる一冊。 タネまき、水やり、綿積み、糸紡ぎ、布織り。おとなりのおばあちゃんがくれたタネをベランダの鉢にまいたモモとタイガ。大事に育てたら、花が咲いて、実がなって、はじけた実からふわふわの綿がとれました。この綿から、糸が作れるんだって！綿花の育て方、糸の紡ぎ方、布の織り方など綿花と楽しくつきあうヒントがいっぱいつまった一冊。
5		なないろのはし 横山 佳/作 平澤 朋子/絵 978-4-7764-1172-7	BL出版 2025.4 1,760円	四年生、内気な主人公が耳がきこえない祖父や苦手な友達との関わりを通して少しずつ変わっていく。心情の変化を丁寧に描く、心あたたまる一冊。 自分の思っていることがうまく伝えられない空海。おしゃべり好きの苦手な友だちや、いつもどなってばかりのお父さん、大好きな女の子とも、うまく話せない。おじいちゃんは、耳がきこえない。手話を使うおじいちゃんとのコミュニケーションや、小さなきっかけをくりかえして、少しずつ、空海も変わっていく。
6		ちへいせんのみえるところ 長 新太/作 978-4-86484-203-7	絵本塾出版 2025.3 1,980円	前から読んでも、後ろから読んでも、〈でました〉の連続。とにかく頁を開いてからの楽しみ。 草原に横たわる地平線から、「でました。」という言葉と共にいろいろなものが飛び出てきます。広がりある風景で繰り広げられる、不思議な世界。絵本の可能性や自由を見事に表現した長新太の名作絵本。
7		りょうこう 麻生 知子/作 978-4-8340-8851-9	福音館書店 2025.5 1,650円	こうたくとおじいちゃんのどこか懐かしい二人旅の様子を、上から横からユニークな構図で描いた絵本。いっしょに旅する気分になる。 こうたくとおじいちゃんは、二人で旅行に行きます。駅弁をもって電車に乗りこみ、着いたところは、山あいの旅館。湖でボートに乗ったあとは、大浴場で背中を流しあい、卓球で真剣勝負。夕食では、ジュースとビールで「かんぱーい!」。ところが夜、こうたくんは、ホームシックになってしまいます。すると、おじいちゃんは…… 産経児童出版文化賞美術賞受賞作家がユニークな構図でえがく、孫と祖父、はじめての「冒険」旅行。
8		レーナとヒキガエルの紳士 ミリアム・ダーマン&ニコラ・ディガール/文 ジュリア・サルダ/絵 河野 万里子/訳 978-4-19-865976-9	徳間書店 2025.5 2,200円	西のはての奇妙な森で――。渡し守のレーナの前にあらわれたのは、森の主と名乗るヒキガエルのクアクア卿。美しくもあやしい絵と不思議な物語にひきこまれる。 西のはての奇妙な森―。渡し守のレーナがひそかに思いを寄せる青年オーレンは、ある日、その森に入ったまま帰ってこなかった。オーレンをさがしにいったレーナの前にあらわれたのは、森の主だと名乗る、ヒキガエルのクアクア卿。レーナは、その家に招待されるが、そこで見たものは…？はたして、オーレンは見つかるのか？ちょっぴりこわい昔話風の物語に、今、世界で最も注目される気鋭のイラストレータージュリア・サルダが絵を添えました。美しい絵とともに物語を堪能できる、子どもから大人までひきこまれる絵本。
9		まだまだここから 宇佐美 牧子/作 酒井 以/絵 978-4-591-18596-4	ポプラ社 2025.5 1,540円	小学4年生の男の子が夏休みの水泳教室で「がんばること」のほんとうの意味を見つめる。思い通りにいかないときにあなたを応援する物語。 蓮は、小学四年生。水泳だけはちょっぴり得意な男の子。そんな蓮におとずれた、スイミングスクールの特訓生になれるチャンス。でも受かったのは、がんばっていた蓮ではなく、弟の凛で…。がんばったことが実らなかったとき、すべては「むだ」になってしまうのかな？かけがえのない出会いがくじけそうな背中をおしていく、少年の気づきの物語。
10		きみはなんのつる? いろいろなつるしょくぶつのそだつにわ 大野 八生/作 978-4-8340-8850-2	福音館書店 2025.5 1,650円	種が芽を出して、つるが伸び始めた。色々なつる植物が、つるの巻き方を教えてくれたり、支えてくれたり…。やがて花が咲いて、何の植物かがわかる。 アサガオはひとりでは立ってられないので、棒などにつるをぐるぐる巻きつけて支えてもらいます。他にもいろいろな植物がいて、吸盤で壁に張り付いたり、まきひげをからませたりと、いろいろなやり方でまわりに支えてもらいながら大きくなります。人と違っていいのです。自分の得意なやり方で大きくなればいいのです。
小学校・高学年				
1		シリアの秘密の図書館 ワファール・タルノーフスカ/作 ヴァリ・ミンツイ/絵 原田 勝/訳 978-4-7743-3853-8	くもん出版 2025.5 1,760円	シリアの首都、ダマスカスに暮らす子どもたちは、どの国の子どもとも同じようにかくれんぼをしたり、木登りしたりして毎日を過ごしている。ある日、戦争が始まって…。内戦化のシリアに実在した地下図書館から着想を得た物語。 ヌールの暮らすダマスカスは、かつて花々の香りにあふれる美しい街だった。しかし内戦が始まってからというもの、街は危険な戦場へと一変し、ヌールたちは地下シェルターでの避難生活を余儀なくされるようになる。そんななか、ヌールとそいのとこ・アミールはあることを思いつく――秘密の地下図書館を作ろう！やがてふたりが作った地下図書館は、恐怖と不安に苛まれるダマスカスの人々にとって、希望の光となっていく。
2		読書感想文が終わらない! 額架 滯/作 satsuki/絵 978-4-591-18614-5	ポプラ社 2025.6 1,760円	夏休みの宿題の強敵、読書感想文。仕方なく図書室へやってくる子がたくさんいる。そんな図書室で出会ったのは、フミちゃんという中学生。「書く」ことで、自分の本当の気持ちを見つけていく物語。 小学校の図書室に、読書感想文を助けてくれる変な中学生がいるらしい。その名は、フミちゃん。フミちゃんにみちびかれるように、感想文を書きはじめる五人の少年少女たち。ただ感想文を書いただけだけど、不安やさみしさ、モヤモヤがちっとだけ軽くなっていく…。そんな感想文、あなたも書いてみない？
3		日下部くんには 日傘が似合う 神戸 遥真/作 ぼん豆/絵 978-4-251-04493-8	あかね書房 2025.4 1,430円	日下部くんは、フリフリのかわいい日傘をさしている6年生。でもみんな「日下部くんだから」と見守る空気がある。そんな日下部くんと日傘を通して、みんなが少しずつ「本当の自分の気持ち」に気が付いてゆく。 みんながちっと気になっている日下部くんが、ある日、フリフリのかわいい日傘をさしてきた。「日下部くんだから」と見守るうちに、みんなが少しずつ「自分の本当の気持ち」を考えていく…。考えるきっかけがいっぱいつまった自由で楽しい成長物語。

4		アメリカ 空飛ぶ野ネズミの世界一周 トーベン・クールマン//作 金原 瑞人/訳 978-4-89309-743-9	ブロンズ新社 2025.5 2,970円	地面ばかりを掘っていた野ネズミが「大きなネコ」の切手から空や世界への憧れを描き、冒険を始める。世界一周をめざした女性パイロット：アメリカ・エアハートへのオマージュを感じる、野ネズミのかわいらしい物語。 女性パイロットは世界一周をめざす。私たちは空を飛びたい！ネズミは再び空を目指す―女性パイロットが大西洋横断に挑戦！野菜畑の下で暮らす野ネズミの女性発明家は、偶然ある切手を目にしたことから、外の世界に関心をいだく。やがて、かつて飛行機で大西洋横断をはたしたパイロットネズミと出会い、飛行機による世界一周の冒険を計画する。必要な材料を集め、野ネズミ自ら飛行機をつくり、飛立つが……。
5		ミクとオレらの秘密基地 真栄田 ウメ/作 978-4-265-84058-8	岩崎書店 2025.5 1,540円	田舎町の小学校に都会から転校生がやってくる。ところがその子はちっとも笑わない。気になった別のクラスの男の子2人が笑わせてやろうと近づく…そんな軽い気持ちで声をかけたのがすべての始まりだった。小学生3人の友情物語。 オレたちの暮らす田舎町の小学校に、ある日、転校生がやってきた。それが、だれがなにを言っても、ニコリとも笑わない女らしい。「オレらで、そいつ笑わせてやらん？」「そしたらさ、オレらすごくね？なんならヒーローやない？」そんな軽い気持ちで教室に向かったのが、すべての始まりだったー。まっすぐで、とびきり清々しい友情物語。第19回ジュニア冒険小説大賞受賞作品。
6		金色の切手と オードリーの秘密 オンジャリ Q、ラウフ/作 久保 陽子/訳 978-4-86389-898-1	静山社 2025.4 1,870円	誰にも話せない家族の事情をかかえて、ひとりがんばるヤングケアラーのオードリー。病気の母の困りごとを解決するために、大きな事件を起こしてしまいます。周囲や社会の助けを得て、オードリーは希望を見出ししていきます。 「大事なのは、お母さんについて何もきかれないことです。だれにもきかれないようにするのが、何より大事なんです。だって…その、秘密だから。秘密、だったから」だれにも話せない家族の事情をかかえて、ひとり懸命に暮らしをつむいできたオードリー。親友のカヴィとイナラ、郵便局員のモーさん、医師のアデオラ先生に商店のデビビスさん…、孤軍奮闘の日々はそれでも、町の人々のあたたかいまなざしの中にあっただー。
7		この手はいつか 中山 聖子/作 保光 敏将/絵 978-4-580-82669-4	文研出版 2025.2 1,650円	心の中で一気に燃え上がった炎を抑えることができず、クラスメイトを殴ってしまった真潮。担任の先生は真潮の母に、その原因が愛情不足にあると諭した。1学期の終業式の日、夜まで仕事で帰らない母を待つ真潮は熱中症になってしまう。目覚めた病院には、母ではなく、長年会っていない祖父の姿があった。「母は仕事の研修で大阪にいる。そのうち帰ってくる」。祖父の言葉を嘘だろうと思いつつも、従うしかない真潮は、萩焼の窯元である山口県萩市の祖父の家で夏休みを過ごすことになってー。 ある事件をきっかけに、夏休み中、母の実家へ1人で行くことになった真潮(ましろ)。萩焼さという焼き物を焼いている職人のおじいちゃん、現地で知り合った友達、同じアパートの近所のおじいちゃん、様々な人達との関わりの中で前向きな心を取り戻してゆく。
8		白い虹を投げる 吉野 万里子/作 黒須 高嶺/絵 978-4-05-206059-5	Gakken 2025.3 1,760円	「葉央は『キャッチボールクラシック』っていう大会知ってる？」 「チームふたり」シリーズの吉野万里子が贈る「人と人との心をつなぐ」キャッチボールの物語。 同じ野球チームだったヤヤと葉央。ヤヤは転校してから新しいチームになじめず、葉央はメンバー不足で試合ができなかった。二人はメールを送り励まし合っていたが、ある日「キャッチボールクラシック」という大会を知る。二人はその大会で再会することを誓い練習にはげむが…。
9		星空写真家KAGAYA 月と星座(1) 月 KAGAYA/監修・写真 山下 美紀/文 WILLこども知育研究所/編 978-4-323-05271-7	金の星社 2025.1 3,520円	プラネタリウム映像や展覧会を手がける大人気星空写真家KAGAYAさんの天体図鑑。知識の本とは思えない美しい写真と解説文がとても分かりやすくすてきな1冊。 満月、月の満ち欠け、三日月、月の動き、月食 日食、月光がつくる現象、月のすがた、月と地球、月の撮り方 「星空写真家KAGAYA 月と星座」シリーズ 全5巻 1)月 2)春の星座 3)夏の星座 4)秋の星座 5)冬の星座
10		ミハイルのハーモニカ 高橋 良子/文 金子 恵/絵 978-4-580-82680-9	文研出版 2025.3 1,650円	南樺太で生活していた日本人の少年4人は、ミハイルというロシア人と仲良くなる。しかし戦争が激しさを増し、お互い交流を持つことが難しくなっていく。1945年8月15日以降に起きた日本人の運命とは…。 北海道の宗谷海峡の北にある島、サハリン。戦前までこの島は樺太とよばれ、南半分は南樺太は日本領であり、日本人が多く生活していた。太平洋戦争終戦に向かった一九四五(昭和二十)年八月十五日以降、ソ連軍(当時、現在のロシア)が南樺太に上陸、攻撃をはじめた。南樺太で生活していた日本人の運命は…。

2025年度(令和7年度) 夏休みにおすすめする本				
選 定 北海道学校図書館協会				
選定協力 札幌市学校図書館協議会				
	表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 税込価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など
中学校				
1		第58回緑陰図書 13歳からの考古学シリーズ なんで人は青を作ったの？ 青色の歴史を探る旅 谷口 陽子・高橋 香里/著 クレメンス・メッツラー/画 978-4-7977-2417-5	新泉社 2025.1 2,420円	青色は人類がずっと欲しかった色。天然の世界にもほとんど存在していない。中学一年生の蒼太郎と律は科学倶楽部の森井老人と青色作成の秘密に迫る。読みやすい章立てと美しい挿絵が良い。 運動が苦手で見知らぬ蒼太郎と運動神経がよくてお調子者の律。対称的なふたりの中学1年生男子が、化学者の森井老人の指導のもと、人類がどうやって「青色」を手にしたのかを証明する壮大な実験に挑戦します。顔料に使えるような青色の石(鉱物)は自然にはほとんど存在しません。だからこそ人類は古代からさまざまな工夫をして「青」を作ってきたのです。銅やお酢、ウシの血など、簡単に手に入る材料から高価な青を作りだした、人類のあくなき探究の旅にあなたも同行しませんか？

2		17歳のサリーダ 実石 沙枝子/著 978-4-	講談社 2024.12 1,980円	学校に居場所がない新菜が出会ったのはフラメンコ！先の見えない将来の出口(サリーダ)を目指して踊る、新菜の力強くさわやかな物語。 新菜は高校をやめた。親友と自分へのいじめを知らながら放置した学校に失望したからだ。孤独な日々を送る彼女は、ある日、プロのフラメンコダンサー玲子、カンタオール(歌い手)ジョージと出会う。二人の誘いでフラメンコを始めた新菜。玲子の優しさでジョージの歌に触れながら、止まっていた新菜の人生は再び時を刻みはじめる…。「大丈夫。たとえまた暗い夜が来ても、わたしはそこから抜けだせる！」
3		加藤セチと女性科学者たち 加藤 祐輔/著 978-4-472-06026-7	玉川大学出版部 2025.2 2,750円	加藤セチは、明治26年(1893年)に生まれ、北海道帝国大学に初めての女学生として入学し、科学の世界が男性ばかりだった時代に、初の女性科学者になった。そして「学びたい」「研究したい」という多くの女性たちを育てた。 加藤セチは、いまから130年以上まえに生まれた科学者です。北海道帝国大学にはじめての女子学生として入学し、理化学研究所でも初の女性科学者となりました。科学の世界が男性ばかりだった時代に、女性が活やくできる道をきりひらき、多くの女性を弟子にしてりっぱな科学者に育てたその生涯をセチ自らが語ります。
4		ハロハロ こまつ あやこ/著 978-4-06-537068-1	講談社 2024.12 1,650円	高校1年ののの花は入学早々のカゼで欠席が続き、クラス内での友人も作れず、アガリ症の性格もありひとりぼっち。たまたま始めたオンラインの英会話でフィリピン人の講師により無色だった生活に色がつき始め、未知の世界が広がりはじめる。 「何でこの本を読んだの？」この学校にフィリピンの昔話を知ってる人が、私以外にもいるなんて。もしかしてフィリピンに興味があるのかも。そう思ったら引き止めずにはいられなかった。「うちの母親、フィリピン人だから。血はつながってないけど」木原さんはさうと言った。…オンライン英会話を始めた高1ののの花は講師の先生の影響でフィリピンのことをもっと知りたくなり、クラスメイトでフィリピン人の母親がいる風羽と仲良くなる。
5		ぶたのしっぽ 海緒 裕/作 獄 まいこ/絵 978-4-06-539172-3	講談社 2025.4 1,540円	スポーツ万能、成績優秀で、編みぐるみを作るのが大好きな豪太郎。クラスメイトたちにも自分らしく生きるにはどうしたらよいかと悩める子たちがいる。個性を大切に未来に一歩を踏みだす勇気を応援したくなる一冊。 中学二年生の豪太郎が熱中している趣味は、編みぐるみ作り。特に最近はおぶたの編みぐるみ作りに凝っている。だけど、それはクラスメイトにも、幼なじみにも言えない秘密だ。なぜなら、その趣味は「男らしく」ないから。そんなとき、職場体験をきっかけに「ヤングケアラー」で「不登校児」のクラスメイト、篠田と知り合うことになる。少しずつ知る、篠田の話。家族の事情もあるが、何より自分の意思で家にいること。宇宙に行くという将来の夢……。「ぶつうってなんだろう」という疑問が変化したとき、豪太郎の中にひとつの答えが生まれる。それぞれの心の痛みを丁寧に描いた力作。
6		第58回緑陰図書 僕は猛禽類のお医者さん 齊藤 慶輔/著 978-4-04-607048-7	KADOKAWA 2024.10 1,760円	釧路湿原野生生物保護センターで猛禽類の獣医師として働く著者が、人間と野生動物の共存を中高生へ伝える。 北海道の東・釧路市の自然豊かな場所にある「猛禽類医学研究所」。ここで、人の活動によって傷つけられたオオワシやオジロワシ、シマフクロウなどの野生の猛禽類を助けるのが僕の仕事です。どうしてこんなことをしているのか、毎日何をしているのか、詳しくお伝えしていきます。野生の動物との共生について、考えていただける機会となることを願って…！
7		ペンツベルクの夜 キルステン・ボイエ/作 木本 栄/訳 978-4-86389-774-8	静山社 2025.5 1,980円	15歳の少年ゲオルクとグストル、14歳の少女マリー。三人の若者が見つめる終戦まじかの夜。時代の思想によって善と悪は簡単にひっくり返る。10代の若者の視点で描き出された今だからこそ知ることができる戦争の真実。 あの日、正義はどこへ向かったのかー。口には出せないけれど、誰もが待ち望んでいた修正が、平和が、すぐそこまで迫っている夜、ドイツの小さな町で事件が起こった。14歳のマリーと、15歳の少年ゲオルクとグストル、それぞれの目には何が映っていたのか。過去の惨劇に学び、今日の決断を誤らないよう、今こそ届けたいドイツ児童文学賞受賞作。
8		閉じこめられた「森の人」 ミッシェル・カダルスマン/著 村上 利佳/訳 978-4-7515-3253-9	あすなろ書房 2025.5 1,760円	〈森の人〉オランウータンの絶滅を防ぐために環境活動を始めたインドネシアの中学生マリア。彼女が起こした行動が学校全体に思いがけない波紋を呼ぶ。野生動物の飼育、パーム油獲得が環境へ及ぼす影響など、地球のためにできることを考えるきっかけとなる一冊。 インドネシアの恵まれた家庭で育ち、環境保全活動に積極的に取り組むマリア。中学校での日々を一生懸命にすごしながらも、地元に残された友人に罪悪感を抱えているアリ。檻の中に監禁されたオランウータンのジンジャー。それぞれの視点から、インドネシアが直面している環境問題と、それによって生まれたオランウータンの窮状を描く。
9		そして砂漠は消える マリー・パヴレンコ/作 河野 万里子/訳 978-4-86389-791-5	静山社 2025.5 2,035円	12歳のサマアが生きるのは、かつて栄えていた文明が減じた後の世界。限りある資源保全、環境問題など、現代に生きる私たちに警鐘を鳴らす世界観。砂漠の中で生き延びようと闘う少女の物語。 ほとんどの生き物が砂漠に飲みこまれた世界で、残った木々を狩りそれを売って暮らす遊牧の民。木を狩るハンターは男の仕事という掟をやぶって、少女サマアは一人旅立つ。わたしはハンターになる！絶対に…12歳の少女が孤独な闘いの果てに出会う命と希望の物語。
10		消えたモナ・リザ ニコラス・デイ/作 千葉 茂樹/訳 978-4-09-290684-6	小学館 2025.5 1,870円	美術に詳しくなくても多くの人がその存在を知る名画「モナ・リザ」。1911年の盗難によって有名になったとは？ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」制作の背景を交えて語られるノンフィクション。 史上最高の名画と名高い『モナ・リザ』は、1911年の盗難事件で注目されるまでは無名の作品にすぎなかった。この物語は、『モナ・リザ』が盗まれてから、美術館に戻ってくるまでのノンフィクションである。ルーブル美術館から名画モナ・リザが消えた！いったいだれが、どこに持ち去ったのか？1911年に実際に起きたモナ・リザ事件を元に、事件の経緯、モナ・リザの秘密、作者レオナルド・ダ・ヴィンチを解き明かす。
高等学校				
1		愛ちゃんのモテる人生 宇井 彩野/著 978-4-309-03220-7	河出書房新社 2024.10 1,848円	ちょっとフェミニンなゲイの愛ちゃんは、動画配信で視聴者の悩みに自分の恋愛遍歴を語る。セクシャルマイノリティとして傷つくこともあったけれど、前向きに明るく、優しく、元気に生きている清々しい物語。 「はろー、愛ちゃんだよ」18歳のオープンリー・ゲイ愛は、「失恋」をきっかけに動画配信を始めるー。約10年にわたる“モテる”人生の軌跡。愛ちゃんの年下の幼馴染・太良のキャンパスライフ「太良の法学ノート」を同時収録。第5回氷室冴子青春文学賞大賞受賞作。

2		星の教室 高田 郁/著 978-4-7584-1478-4	角川春樹 事務所 2025.2 1,760円	『「学び」』とは、誰にも奪われないものを自分の中に蓄えること」。中学をいじめにより不登校のまま卒業できなかったさやかは、20歳になり夜間中学の存在を知り入学することに。そこには学び、夢を育むさまざまな人たちがいた。 主人公の潤間さやかは、中学の卒業証書を受け取っていない。義務教育さえまともに終えていないという枷が、社会でも家庭内でも、さやかを生き辛くさせていた。しかし、ある日、さやかは夜間中学という存在を知る。それは、戦争や貧しさや病など、さまざまな事情で義務教育を終えられなかった大人たちの集う学校だった。二十歳の春、さやかは河堀夜間中学への入学を果たす。仲間たちに支えられて過ごす日々が、学校や親への不信で雁字搦めだったさやかの心を解きほぐしていく。やがて、さやかには密かに叶えたい、という夢が芽生え始めるのだが…。
3	 ©樋口六華/集英社	泡の子 （あぶくのこ） 樋口 六華/著 978-4-08-771893-5	集英社 2025.2 1,760円	トー横（新宿歌舞伎町東宝ビルの横）の周辺にたむろする若者、未成年「トー横キッズ」。酒、たばこ、薬、売春、なんでもありの、そしてなにもない世界で生きる若者たちの物語。個性的な文体が秀逸な17歳高校生の小説すばる文学賞受賞作。 新宿駅東口。退廃的で無秩序。私はこの現実で、彼女のために何ができるー？『王』と自称する男が捕まった時、七瀬は「あ」と言った。私は、その幽かな叫び声を隣で聞いた。ここはつまらない奴らばかりがいる場所だけど、七瀬だけは違う。だから、彼女の隣にいても息苦しさは感じなかった。薬で強制的に引きずり込まれた夢の中でも、七瀬は現れる。もしかしたら私は、彼女とこの場所に、まだしがみついているのかもしれない。これは、2007年生まれの若き著者が贈る、終わってる世界で生きている「私たち」の物語。
4		その本はまだ ルリユールされていない 坂本 葵/著 978-4-582-83982-1	平凡社 2025.3 1,870円	非常勤の派遣司書として働くふみは、母校の小学校の学校司書として赴任する。住まいはルリユール工房を併設するリーブル荘。学校図書館、製本工房が紡ぐ紙の本と人との物語。 司法書士になる夢をあきらめたまふみは非正規職員の図書館司書として母校の小学校に赴任するため、実家近くのアパート・リーブル荘に引っ越してきた。ルリユール工房を併設するリーブル荘には、世界的な製本家として活躍する綺堂瀧子親方とその孫で天才製本家の由良子が暮らしていた。元々本が好きだったまふみは手製本の美しさに魅せられていく。
5		僕の悲しみに 君は跳んでくれ 岡本 雄矢/著 978-4-344-04432-6	幻冬舎 2025.5 1,650円	札幌で高校時代を過ごした仲間たちには、学校祭の時に中庭で見たライブの忘れられない瞬間があった。その中庭が無くなると知った時、もう一度あの場所で、あの瞬間を仲間と共有したら、これからの人生も私は頑張れる。青春の大切な瞬間を感じられる一冊。 私たちは今、壮平君が歌った未来にいる一。北海道のある街で高校時代を過ごした仲間たちには、共通した「忘れられない瞬間」がある。学校祭の中庭のライブで見た、瀬川壮平の跳躍だ。当時の仲間が同窓会と称して集まっていたある日、その中庭が無くなるというニュースが。もう一度、あの場所で、あの瞬間を共有したい！しかし…。不器用な青春を送り、不器用な大人になったすべての人の心を揺さぶる青春小説。